リオン株式会社
証券コード：6823

リオンの風

株主のみなさまへ
第95期　第2四半期
事業報告書

2015.4.1―2015.9.30

CONTENTS

トップメッセージ	1
事業別営業概況	3
特集：新任社外取締役インタビュー	5
新製品のご紹介	7
トピックス	9
連結財務諸表	12
会社案内	13
株主メモ	14
音を科学する	裏表紙

トップメッセージ *To Our Shareholders*

株主の皆様には平素より当社事業へのご支援を賜り誠にありがとうございます。ここに2016年3月期第2四半期のご報告を差し上げることができますことを大変嬉しく存じます。お陰様をもちまして弊社グループの上期の状況につきましては、全体としてほぼ計画に沿った業績にて推移することができました。

代表取締役社長
清水 健一

第2四半期を振り返って

今上期の営業上の特徴といたしましては、医療機器事業、環境機器事業の両事業ともに上期としての売上高がリーマンショック以降の最高額を更新したことがあげられます。特に消費増税の影響を受けて湿りがちだった補聴器の販売が持ち直したこと、また、スマートフォンや自動車に使われる半導体の製造が活況を呈した影響で微粒子計測器の需要が好調だったことが増収の要因となりました。今後も、2007年3月期に記録いたしました過去最高の上期売上高を更新すべく尽力してまいります。

このように売上高につきましては、前年同期比で増収となりました。しかしながら、営業利益につきましては残念ながら減益となっております。但し、これは新製品の開発費用や、既存製品の改良費用など、前向きな支出が増加した結果でありますので、誤解を恐れずに言えば「良い減益」と捉えることもできます。さらに、営業利益の水準を見た場合には、過去最高益を更新した前年同期には及ばないものの、従前をしのぐ状態を維持する結果となっております。

下期の展望について

当社で扱う四つの製品群のそれぞれの業績につきましては、異なる要因によって明暗が分かれることがあります。今上期におきましては、補聴器と微粒子計測器の販売は好調でしたが、音響・振動計測器と医用検査機器の販売は前年同期には及びませんでした。

下期におきましては、公官庁でニーズの高い大型の音響・振動計測器の販売と、医療機関の設備投資に対応した医用検査機器の販売に力を注ぎ、上期の遅れを取り戻したいと考えております。

このように製品群ごとに増収と減収が混在するなかで、下期での挽回を考慮いたしますと、通期における四つの製品群トータルでの売上高と営業利益は、ほぼ前期並みの水準に落ち着くものと見込んでおります。従いまして、平成27年4月28日に開示しております予想値から大きな乖離はないものと判断しております。

コーポレートガバナンス・コードへの取り組みについて

本年６月１日から国内の上場企業に対してコーポレートガバナンス・コードが適用されることになりました。コードでは、政策保有株式に関する説明義務や２人以上の独立社外取締役を選ぶことなどが求められており、企業経営者が健全な企業家精神を発揮し、積極的に経営に取り組むことをサポートすることが適用の趣旨となっております。

当社では、コードが求める諸原則の実施状況をコーポレートガバナンス報告書において開示するとともに、経営に対する監督機能の強化を図るため、独立性の高い社外取締役1名を新たに選任し、2名の社外監査役を含め4名の独立役員を置く体制を整えております。

株主還元について

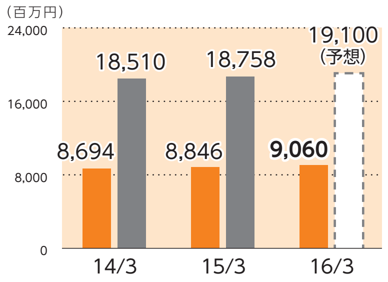
前述のような過去最高水準の業績が継続していることに鑑み、今期の配当金の年額を30円に増額し、6期連続の増配とさせて頂く予定であります。これは株主の皆様からのご支援に応えることを経営の重要課題のひとつと認識しているためでありまして、20%以上の配当性向を継続することを念頭においております。

株主の皆様には、引き続きリオン株式会社に温かいご支援を賜りますとともに、今後の事業展開にご期待くださいますようお願い申し上げます。

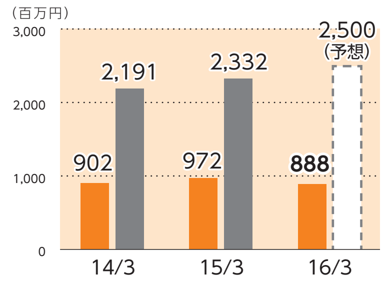
連結財務ハイライト ■第2四半期 ■期末

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

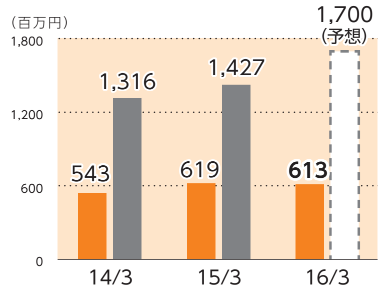
売上高



営業利益

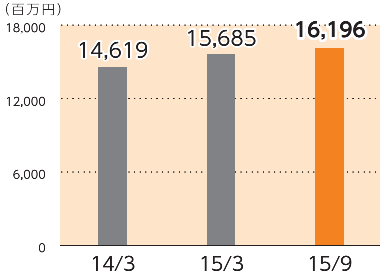


親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

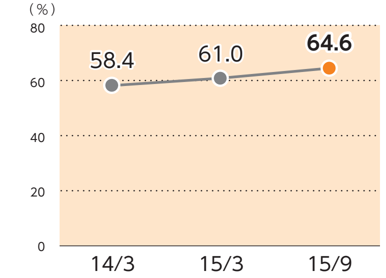


※「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「四半期(当期)純利益」は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」に名称が変更になりました。

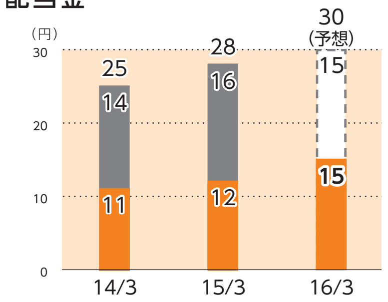
純資産



自己資本比率



配当金



事業別営業概況 *Review of Operations*

医用検査機器と音響・振動計測器は減収、補聴器と微粒子計測器は好調に推移、前年同期に比べて増収となりました。

当第2四半期の当社グループの業績につきましては、医用検査機器と音響・振動計測器が減収となったものの、補聴器と微粒子計測器の販売が好調に推移したことから、全体では前年同期と比べて増収となりました。一方、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、音響・振動計測器の新製品開発に伴う費用等が増加したことにより、いずれも減益となりました。

環境機器事業

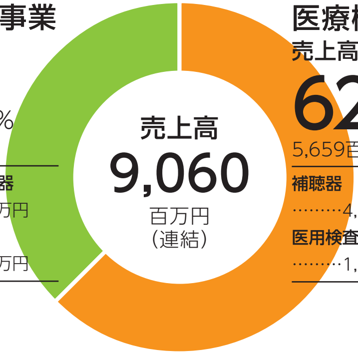
売上高

37.5%

3,401百万円

音響・振動計測器 ………1,859百万円

微粒子計測器 ………1,542百万円



医療機器事業

売上高

62.5%

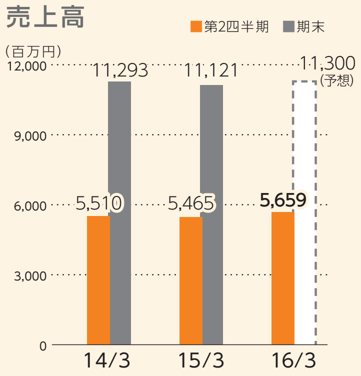
5,659百万円

補聴器 ………4,647百万円

医用検査機器 ………1,011百万円

医療機器事業

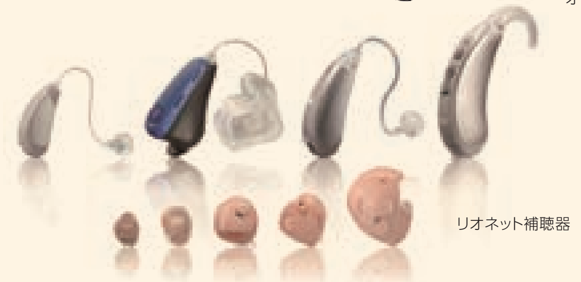
補聴器では、消費増税により低下した消費マインドが改善傾向にあることで市場全体が好調に推移したほか、8月に発売した中価格帯の新製品「リオネットプレシアII」が売上に寄与し、消費増税前の売上高水準を上回る結果となりました。医用検査機器では、聴力検査室や電子カルテ関連の販売が前年並みに推移したものの、総合・大学病院への診断用オージオメータ等の高額製品の販売が伸び悩みました。これらの結果、補聴器の好調な売上が事業全体を牽引し、医療機器事業は前年同期と比べて増収増益となりました。



聴力検査室

主力製品"リオネット補聴器"のほか、聴力検査に用いられるオージオメータ（聴力検査器）や聴力検査室など、耳鼻咽喉科領域を中心に各種医療機器を展開しています。

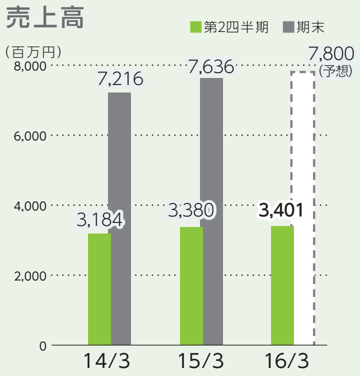
オージオメータ



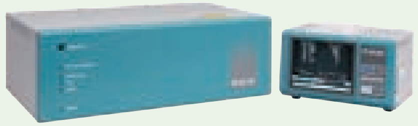
リオネット補聴器

環境機器事業

音響・振動計測器では、国内の自動車関連産業における設備投資が回復しつつあるものの、システム製品など大型案件が少なかったことから低調に推移しました。微粒子計測器では、電子デバイス関連市場において、台湾や韓国を中心とした海外ファウンドリ企業の微細化に伴う設備投資が引き続き活発であったことにより、液中微粒子計の販売が好調に推移しました。これらの結果、環境機器事業全体では微粒子計測器の売上が好調であったことから、前年同期と比べて増収となりましたが、音響・振動計測器の新製品開発に伴う費用等の増加が影響し、減益となりました。



環境騒音等を測定する騒音計、設備診断等に用いられる振動計のほか、電子デバイス工場等の清浄度管理に使用するパーティクルカウンタ（微粒子計）などの製品があります。



パーティクルカウンタ

振動計

地震計

騒音計

特集

新任社外取締役インタビュー

社外取締役　築野（つの）　元則（もとのり）

2015年6月24日開催の株主総会にて、
新たに社外取締役に選任された
築野元則氏に話を聞きました。

Q1. ご自身の経歴についてお聞かせください。

1981年から今年3月まで34年間にわたり、日本政府の途上国援助の仕事をしてきました。大学時代のゼミやボランティア活動を通じて、世界の南北格差や環境問題等地球規模の課題解決に向けた日本の国際貢献に関心を持ったことがきっかけです。海外経済協力基金、国際協力銀行および国際協力機構(JICA)において、一貫して社会インフラや人材育成等、途上国の発展に必要な事業のための円借款(長期低利融資)に携わりました。

主な担当地域は、80年代はアフリカ、90年代以降はアジアや中南米で、パリとベトナムのハノイにそれぞれ二度、計15年近い海外勤務を経験しました。特にベトナムでは、1992年のODA開始当初に日本大使館に出向し、厳しい生活環境の中で遣り甲斐の大きい仕事を担当しました。また、2008年10月よりJICAベトナム所長として広範な経済・技術協力事業を推進し、日本のODA20年の成果と日越友好関係の深化を現地で実感する幸運に恵まれました。

2013年5月に帰国後は、JICA関西所長として関西の自治体や大学・企業と途上国の橋渡しに努めました。近年、アジアの新興国を中心とする途上国の発展は目覚しく、日本自身の成長のためにも重要なパートナーとなり、双方の利益のため、日本企業の優れた技術や経験を生かすことが期待されています。今年4月からは、和歌山の実家の会社(築野食品工業株式会社)に転身し、引き続き企業の立場から、途上国との友好と社会貢献を目指したいと考えています。

Q2. 社外取締役としての今後の抱負をお聞かせください。

社外取締役の役割は、取締役会において独立した第三者の視点から経営の監督と助言を行うことにより、会社の発展に貢献することにあります。私が長年係わった国際協力では、途上国のニーズや開発計画における優先度を的確に把握し、事業の経済、財務、技術の各面から総合的にフィージビリティを確認することが不可欠とされます。

また、実施過程を通じ不断の進捗監理を行い、問題の早期確認と解決を図り、完成後には事業効果、効率性、持続可能性等の観点から事後評価を行うことで、教訓を新たな事業に生かすというプロジェクト・サイクルが重視されています。こうした視点は会社経営にも通じ、これまでの経験を生かしてリオンの各事業部門の運営状況を客観的にチェックし、株主の皆様のお役に立ちたいと思います。

Q3. リオンに対する印象はいかがでしょうか。また、社外役員としての立場から見て、当社の課題はどんな所にあるとお考えですか？

JICA関西所長時代の2014年10月、関西の医科大学・医療分野の企業を対象として、ベトナムの医療の現状や課題を理解し協力関係を構築するためのミッションを企画しました。そこにリオンの吉川常務(現相談役)が参加されたことが当社を知ったきっかけです。リオンは医科大学とも連携し、より性能の高い補聴器の開発に取り組んでおられますが、役員や社員の皆様には、自社の技術に誇りを持ち、仕事を通じて社会に貢献したいという真摯な姿勢と情熱を感じます。

一方、私が長年勤務したベトナムでは、他国に比べても難聴児が多いと言われ、早期に聴力障害を発見し、子供の成長と幸福になくてはならない音を取り戻すため、リオンの技術と製品は大きな貢献が可能です。また、ベトナムでは、近年、日本の援助により高速道路、港湾、都市鉄道等のインフラ整備が進展していますが、適切な維持管理を行うためには騒音や振動の計測が重要で、そこにもリオンの技術が生きます。

リオンの将来にとって、特にアジアの新興国には大きなビジネスチャンスが広がっており、本誌の前号で清水社長がおっしゃっていたように、海外展開をどのように進めるかが重要課題であると思います。

Q4. 最後に、株主の皆様にむけてのメッセージをお願いいたします。

私が携わった日本の途上国援助事業は、アジアやアフリカ諸国の発展に貢献する一方、異なる風土や習慣の中、事業実施過程では数多くの難しい問題に直面しました。そうした困難を克服して効果的な事業実施を図るため、日々、日本企業や途上国側のパートナーとの連携に努めました。私にとって、社外取締役の仕事は初めての経験ですが、株主の皆様の視点を踏まえた経営の監督とともに、これまでの国際経験を生かし、海外展開を通じた会社の発展に貢献したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新製品のご紹介 *New Products*

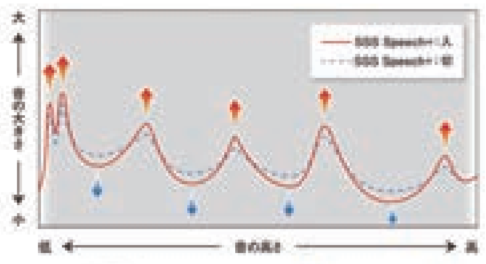
母音の強調機能で聞き取りやすさを向上
デジタル補聴器「リオネットプレシアⅡ」

言葉を聞き取りやすくする機能として好評の「SSS(サウンド・スペクトル・シェイピング)」を発展させ、さらなる機能向上を実現したデジタル補聴器「リオネットプレシアⅡ」を2015年8月に発売しました。

音声は、母音と子音の組み合わせで成り立っていますが、日本語を含め、多くの言語の聞き取りには、特に母音が重要な役割を果たしています。この母音に着目した当社は、新機能「SSS Speech+(スピーチプラス)」を開発し、「リオネットプレシアⅡ」に搭載。これまで以上に母音を明瞭に際立たせることができ、言葉が一層聞き取りやすくなりました。

製品ラインナップは、耳あな型オーダーメイド補聴器4機種、耳かけ型補聴器4機種の計8機種。耳かけ型補聴器は、豊富なカラーバリエーションも用意しました。また希望小売価格は、機能向上を果たしながらも、従来の「リオネットプレシア」から据え置きとなっています。

SSS Speech+(スピーチプラス)の動作イメージ(音声「ウ」)



SSS Speech+は、音の成分の強い部分(↑)を強調し、弱い部分(↓)を弱くします。

新機能「SSS Speech+」について

2009年に開発された「SSS」は、音の知覚に必要な周波数スペクトルの形状を加工し、凹凸(コントラスト)を強調することで聞き取りやすくする機能です。新開発の「SSS Speech+」は、この「SSS」の性能に加えて、より低い周波数の成分まで強調処理を拡張。母音の特徴を捉え、はっきりと力強い聞こえを提供します。

特設サイトはこちら ▶ http://www.rionet.jp/sss/

もっと使いやすく、もっと聞こえやすく

エアコンや換気扇などの耳ざわりな騒音を低減する「ノイズリダクション」機能は、設定を従来の4段階から6段階にし、きめ細かな調整を可能としました。

また、耳かけ型RIC/RITEタイプの補聴器(型式:HB-J1CS)は、これまで本体内にあったイヤホンを、RICタイプは外耳道に入れ、RITEタイプは外耳道の入口に配置することで、自然に近い聞こえをもたらします。

「リオネットプレシアⅡ」は、QOL(生活の質)向上のための補聴器として、多くのユーザー様に笑顔をお届けできるものと自負しています。

振動レベルと振動加速度レベルを同時測定
振動レベル計「VM-55」

建設工事や工場、道路交通などの振動公害に際し、地盤振動の測定に用いられる振動レベル計の新商品「VM-55」を2015年6月に発売しました。

本製品は、本体と付属の3方向振動ピックアップで構成され、振動レベルおよび振動加速度レベルの瞬時値や時間率レベル、時間平均レベル、最大値・最小値を3方向同時に測定可能。計量法および日本工業規格の「JIS C 1510:1995」「JIS C 1517:2014」に適合し、平成27年新基準による検定もクリアしています。

1 TOPICS

株主の皆様に向けて会社見学会を実施

9月24日、約50名の個人株主様をお招きし、会社見学会を実施いたしました。毎年恒例となっている会社見学会ですが、株主の皆様には、これまで以上に当社を知って頂きたいとの想いから、今年は様々な新しい試みを行いました。その1つとして、床に敷設した磁気ループから補聴器に音声信号を直接伝える磁気ループ補聴システムや、話者の声を補聴器に直接届けるFM補聴システムをご体験頂くコーナーを設けました。これらの補聴援助システムは、ろう学校を始め、劇場や美術館などの施設などでも用いられているものです。お試し頂いた方からは、「雑音の多い会場内でも、明瞭に音声を聞き取れる」などのご感想を多数頂きました。

また、会社見学会の開催にあたり、参加希望のご応募を多数頂きました。残念ながら、ご応募頂いた方全てのご希望に沿うことはできませんでしたが、これからも皆様に当社を身近に感じて頂けるイベントの企画・開催を進めてまいります。

見学会

補聴援助システムの体験コーナー

2 TOPICS

リオンの自衛消防隊が審査会で優勝

当社が居を構える国分寺市では、毎年消防署の主催による自衛消防訓練審査会が行われています。今年も市内の多数の事業所が参加する中、リオンは新入社員から4名を選抜し、地震発生から初期消火までを想定した訓練を積んできました。9月2日、迎えた本番では2ヶ月に及ぶ努力の成果を発揮し、17年ぶりの優勝という結果を手にしました。

当社は大震災に備えた地域の防災意識の向上という審査会の意義に賛同し、今後も防災活動に真摯に取り組んでまいります。

自衛消防隊の面々

審査会での演技の様子

3 TOPICS

鎌倉投信『結いだより』にリオンが登場

投資信託委託会社の鎌倉投信株式会社が発行している月次運用報告『結いだより』(7月3日発行 第64号)に、当社が投資先の「いい会社」として紹介されました。

鎌倉投信の運用する「結い2101」という投資信託では、経営指標のみを追いかけるのではなく、「これからの日本に必要とされる会社」、「優れた企業文化を持ち、感動的なサービスを提供する会社」などを「いい会社」と定めて投資を行っています。当社は引き続き必要とされる会社として、事業活動に邁進してまいります。

鎌倉投信『結いだより』

4 TOPICS

~スポーツの側面から見たリオンをアピール~

サンケイプラザで記者懇談会を実施

「リオンは すべての行動を通して 人へ 社会へ 世界へ 貢献する」を企業理念に掲げる当社に対しては、「社会福祉」や「環境保全」といったイメージを抱く方が多いかもしれません。8月27日に大手町サンケイプラザで開催された記者懇談会では、「オリンピック、パラリンピックから子供たちの運動まで、様々なスポーツシーンを楽しくするリオンの技術」をテーマに、スポーツの現場を楽しくする当社の製品・サービスを紹介いたしました。

補聴器が難聴者の聞こえを助けることは、日常生活にとどまりません。昨年グッドデザイン賞を受賞した防水デジタル補聴器「SPLASH」シリーズのすぐれた防水性能は、汗や水の影響を受けることの多いスポーツシーンにおいても、大いに有用となります。また、スタジアムでのスポーツ観戦、会場へのアクセスにおいて、当社の補聴援助システム（株主様向けの会社見学会にも登場）が、より良い聞こえを提供し、安全に寄与することを紹介いたしました。

騒音・振動計などの環境機器では、測定や分析の技術を活かすことで、テニスラケットや野球のバット、スキー板などのスポーツ用具を高度に開発することが可能になるほか、集音・再生技術を進化させることで、これまで以上に臨場感にあふれたスポーツ観戦の可能性を提示しました。

会場では補聴援助システムを始め、「臨場感のある音の体験」と題してバイノーラル録音再生技術を体感できるコーナーも設け、多くの記者の方に当社の新しい一面を感じて頂きました。

プレゼンテーションの様子

記者の方とのコミュニケーション

臨場感のある音の体験コーナー

連結財務諸表 *Financial Statements*

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期 2015年3月31日現在	当第2四半期 2015年9月30日現在
資産の部		
流動資産	13,241	12,720
固定資産	12,450	12,351
有形固定資産	9,687	9,606
無形固定資産	571	561
投資その他の資産	2,191	2,183
資産合計	25,691	25,072
負債の部		
流動負債	4,225	3,523
固定負債	5,779	5,351
1 負債合計	10,005	8,875
純資産の部		
株主資本	11,837	12,301
その他の包括利益累計額	3,842	3,894
新株予約権	6	—
純資産合計	15,685	16,196
負債純資産合計	25,691	25,072

POINTS

1 負債合計

有利子負債の減少などに伴い、負債合計が11億3,000万円減少しました。

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産及び無形固定資産の支出2億7,933万円などがありました。

3 財務活動によるキュッシュ・フロー

長期借入金の返済及び社債の償還による支出4億9,333万円などがありました。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 2014年4月 1日から 2014年9月30日まで	当第2四半期 2015年4月 1日から 2015年9月30日まで
売上高	8,846	9,060
売上原価	4,140	4,345
売上総利益	4,705	4,714
販売費及び一般管理費	3,733	3,825
営業利益	972	888
営業外収益	40	62
営業外費用	30	11
経常利益	982	939
特別利益	34	2
特別損失	2	3
税金等調整前四半期純利益	1,014	938
法人税等	395	325
親会社株主に帰属する四半期純利益※	619	613

※「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「四半期（当期）純利益」は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」に名称が変更になりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 2014年4月 1日から 2014年9月30日まで	当第2四半期 2015年4月 1日から 2015年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,025	1,536
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 796	△ 283
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	163	△ 647
現金及び現金同等物の増減額	391	606
現金及び現金同等物の期首残高	2,781	2,466
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,172	3,072

詳しい財務情報は当社ホームページ（IR・投資家情報）をご覧ください。 http://www.rion.co.jp/ir/

会社案内 *Corporate Data*

（2015年9月30日現在）

会社概要

商　　号 ………… リオン株式会社
本　　社 ………… 〒185-8533
東京都国分寺市東元町三丁目20番41号
創　　立 ………… 1944年6月21日
資 本 金 ………… 20億1,461万円
従業員数 ………… 連結757名、単体476名
（2015年3月31日現在）
事業内容 ………… ○ 医療機器　・補聴器
・医用検査機器
○ 環境機器　・音響・振動計測器
・微粒子計測器

株式情報

発行可能株式総数 ………………………… 32,000,000株
発行済株式総数 ………………………… 12,294,400株
総株主数 ………………………………………… 5,472名

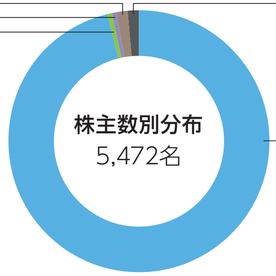
大株主

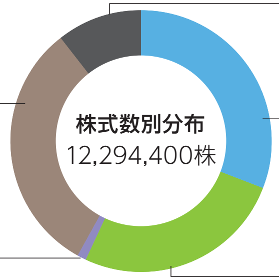
株主名	所有株数（株）	持株比率（%）
一般財団法人小林理学研究所	3,130,700	25.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,152,000	9.37
リオン取引先持株会	560,200	4.56
株式会社みずほ銀行	490,000	3.99
BNP-PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS	410,000	3.33
リオン従業員持株会	244,700	1.99
JP MORGAN CHASE BANK 385181	216,700	1.76
三井住友信託銀行株式会社	200,000	1.63
株式会社三菱東京UFJ銀行	175,000	1.42
株式会社三井住友銀行	150,000	1.22
日本生命保険相互会社	150,000	1.22

取締役及び監査役

代表取締役社長	清水　健一
取締役会長	井上　清恆
常務取締役	大内　武彦
取締役	岩橋　清勝
取締役	若林　友晴
社外取締役（独立役員）	山下　充康
社外取締役（独立役員）	築野　元則
常勤監査役	山内　和臣
社外監査役（独立役員）	石谷　勉
社外監査役（独立役員）	佐久間　善弘

株式分布状況





株主メモ *Stock Information*

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先（電話照会先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 電話 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。 なお、株券電子化の際、株券を証券会社の口座に入庫しなかったなどの理由により、特別口座において管理されている株式につきましては、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
未払配当金の支払について	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

アンケートご協力のお願い

当社では、株主の皆様のご意見を今後の経営およびIR活動に役立てていくため、昨年に引続き今年も2015年9月末現在の単元株主の皆様を対象にアンケートを実施することといたしました。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

回答方法　同封のアンケートハガキにご記入の上、郵送してください。なお、ご記入後はプロフィール部分の上に付属の個人情報保護シールを貼付け投函して頂きますようお願いいたします。
ご意見をいただいた株主様に、1,000円分の図書カードを贈呈させていただきます。

締切日　2016年3月31日（消印有効）

音を科学する

「音」を科学することで
様々な製品を
生み出してきたリオン。
このコーナーでは
「音」の不思議な力、
素朴な疑問を
紐解いていきます。

音の反射がない「自由空間」

　音響研究に用いられる設備の一つに「無響室」という空間があります。無響室内は、何重もの分厚い壁で外部からの音の侵入が遮断されており、さらには天井も壁も床も、あらゆる部分が高性能の吸音材料で覆われ、音の反射が抑制されています。この部屋に入って扉を閉めれば、極端な無音状態を経験することができます。

　そこで聴こえるのは自分が発する音だけで、いつもは気付かないような鼓動や耳鳴りを感じ、衣服の擦れる音が意外に大きいことに気付かされます。無響室の見学者は皆、静寂というにはあまりにも静かすぎる空間の中で、圧迫感に似た異常な感覚を体験します。

　声を発したり手を叩いたりしても、吸音材料が音の反射を抑え、跳ね返る音の成分を聴き取ることが不可能な空間。すなわち無響室は、音響研究の実験に必要な「音の自由空間」を模擬的に実現したものと言えます。その内部では、音源が放射した音が球状に拡がり、壁や床などの反射による複雑な要素に邪魔されることなく、音波の伝わり方を観測することができます。

　無響室の中に置かれたマイクロホンには、音源が放射する音だけが直接伝わります。音源から受音点まで最短コースを辿っていくその音は「直接音」と名付けられています。私たちがふだん耳にしているのは、直接音に反射音が加わっている音なのです。

監修：工学博士　山下充康
出典：『謎解き音響学』（丸善）

株主優待制度のご案内

期末配当基準日（3月31日）現在の株主様を対象に株主優待を実施しております。

ジェフグルメカード（食事券）

100株以上 ▶	500円分
500株以上 ▶	1,500円分
1,000株以上 ▶	3,000円分
5,000株以上 ▶	5,000円分
10,000株以上 ▶	10,000円分

リオネット補聴器購入割引券

100株以上
※メーカー希望小売価格の10%割引
（片耳購入の場合は1台分）
（両耳同時購入の場合は2台分）
有効期間：1年間

リオン株式会社　〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41
TEL.042-359-7830（リオン株式会社 IR広報部）
http://www.rion.co.jp

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915
VEGETABLE OIL INK